場所　福井県越前市

面積　0.09ha

活動目的　里山の生物多様性の維持および、マルチステークホルダーへの環境意識醸成



サイト概要

福井県越前市にある「レンゴー武生工場」の敷地内に造成したビオトープ。

工場敷地内を流れる清流「治左川（じさがわ）」の水を利用する形で陸地と川、池を造成することで、陸地の動植物に加え水生動植物の生息域も確保している。

土地利用の変遷

工場設備を撤去した後の遊休地を、上記目的のためビオトープとして利用することとなり2012年に造成した。

サイト周辺の環境

周辺は住宅地や工場、農地（畑）、などに囲まれている。ビオトープは公道に面しており、日中はビオトープへの出入り口を開放している。

アピールポイント

ビオトープでは、積極的に地域の自然環境を守るため、その地域に生育がみられる種を植栽している。

また、里山環境の象徴であり、自然環境のバロメーターといわれているホタルの定着を目指しており、毎年ゲンジボタル、ヘイケボタルを観測している。清流「治左川（じさがわ）」の水を利用するビオトープ内の川には、清流でしか育たないバイカモや、県域絶滅危惧Ⅰ類に分類される淡水魚トミヨなどが観測されている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

工場敷地内の遊休地と工場内を通る清流「治左川」を利用し、生物多様性保全のために創出したビオトープ。創出後は、同一流域内でホタルの繁殖を行っている浄化センターより譲り受ける幼虫をビオトープ内の川へ放流しホタル類の増殖にも努めている。また、環境意識醸成のため、ビオトープを活用したイベントや社員への環境教育の実施等を検討している。

【主な植生】

草地では、シバや スポット的に植栽されていた チガヤ、ススキ、ユキヤナギなどが群落を形成している 。 水路では、湧水や清流を好む希少なバイカモなどの植物種が群落を形成している。植栽樹としては、 樹高 5~6m ほどのヤマハンノキやケヤキが優占し、クロガネモチ、コナラ、ムクゲ なども生育している 。

【確認された主な動植物など】

【植物】70科185種（うち自生種137種、自生種のうち約７割が在来種）
上記植生のほか、スギナ、ゼンマイ、キツネノボタン、ノブドウ、カタバミなど
【動物】49目194科521種
〇底生生物　カワニナ、ホクリクヨコエビ、イソコツブムシ属、サワガニ、カクツツトビケラ属など
〇陸上昆虫類　ギンヤンマ、オニヤンマ、ヨツメトビケラ、キタキチョウ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ニホンミツバチなど
〇魚類　トミヨ属淡水型など



写真の説明：ビオトープ内に群生するチガヤ



写真の説明：ビオトープ内で確認したゲンジボタル

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

清流「治左川（じさがわ）」の水を利用するビオトープ内の水路と池には、清流でしか育たないバイカモや、県域絶滅危惧Ⅰ類に分類されるトミヨ属淡水型などが生育・生息している。2012～2023年度調査で生息・生育を確認した生物のうち、絶滅のおそれがあるとして環境省のレッドリストならびに福井県のレッドデータブックに記載された希少種・絶滅危惧種は、植物が10種、動物が15種であった。

【確認された希少種】

【植物】バイカモ（学名：Ranunculus nipponicus var.submersus/福井県準絶）など6種
【陸上昆虫類】3種
【水生昆虫類】2種
【魚類】トミヨ属淡水型（稚魚・成魚/学名：Pungitius sp.1/環境省地域個体群、福井県Ⅰ類）　1種
【両生類】2種
【鳥類】4種
【哺乳類】1種

生物多様性の価値

価値（7）分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

【場の概況】

清流や湧水を好み、県内でも生育・生息地が限られているバイカモやトミヨ属淡水型がビオトープ内の水路や池で繁殖・定着している。トミヨ属淡水型は、県内では湧水を水源とする「治左川（じさがわ）」水域にしか生息しておらず、治左川の水を利用するビオトープ内の水路や池は貴重な生息場所の一つとなっている。
（参考 福井県HP：
https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyou/water/jisagawaido.html）

【確認された分布限定種、特異な環境へ依存する種】

【バイカモ】
福井県RDB：県域準絶滅危惧
キンポウゲ科の多年草の水草で清流や湧水域に生育。ビオトープでは水路内に生育。

【トミヨ属淡水型】
環境省RL：地域個体群
福井県RDB：県域絶滅危惧Ⅰ類
清流や湧水域に限定して生息。ビオトープでは水路と池内に生息。



写真の説明：ビオトープ内の水路に生息するトミヨ



写真の説明：ビオトープ内に生息するトミヨの巣

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
【活動・モニタリング調査】 ●季節ごとに動植物のモニタリング活動を実施。 ●定期的に植物の剪定刈込等の手入れを実施。 ●侵入外来種を除去。 ●強繁茂種を抑制（ガマ、ツルマメ、シノタケ他他種の生育を著しく阻害し単一植生に向かうのを抑制）。 ●池・水路のアオミドロを除去、過剰に繁茂した場合はバイカモを間引き。 ●ホタルの繁殖を行っている同一流域内の越前市家久浄化センターより譲り受ける幼虫を、ビオトープ内の水域へ放流。 以上の項目を中心に年4～５回のモニタリング調査結果等も参考にしつつ、維持管理を行っている。 【環境教育】 工場の設備リニューアルに合わせ、2026年までの2年間でビオトープを活用しての環境教育を計画中。工場従業員を対象に、生物多様性や環境課題についての講義や、従業員の家族も招いてのビオトープでのフィールドワークなどを検討している。	**【モニタリング対象】** 植物および両生類、昆虫類、魚介類等の水生生物 昆虫類では、特にゲンジボタル、ヘイケボタル 定点カメラによる哺乳類、鳥類他 **【モニタリング場所】** レンゴー武生工場ビオトープ **【モニタリング手法】** 踏査および捕獲による直接確認を行い、リストアップ。 センサーカメラによる哺乳類、鳥類他の利用状況確認（年４回） ホタル類は発生時期の夜間調査による直接確認で個体数を確認、冬季の水路内のホタル類の幼虫生息数の確認 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 各季節1回程度で年４～５回 ホタル発生時期の６，７月頃に夜間調査1～２回 センサーカメラ年4回（５月，７月，９月，１月） **【モニタリング実施体制】** 調査業者に委託。ホタル類の現地発生状況については、夜間巡回の守衛にも生息数の確認を依頼。